# 2013 年度　北海道大学地域経済経営ネットワーク研究センター　シンポジウム

**共催：日本ダイレクトマーケティング学会北海道部会**

## テーマ：観光地アメニティによる地域活性化への路ーマーケティングからの提言

【要旨】

観光による地域活性化を考えるとき，2 つのことが重要になります。1 つは，過去に訪れた経験のない人々に「行ってみたい」と思わせ，その地に来てもらうことです。もう 1 つは一度ならず，何度でも，その地を訪れてもらうことです。そのためには「見どころ」といった観光スポットではなく，複数の「見どころ」を関連づけて観光地全体のアメニティ（魅力度）を高めることが重要になります。しかし，具体的に取組むべき課題は，知床のような自然環境に恵まれた観光地，札幌市のような都市型の観光地，ニセコのようなリゾート型観光地など，地域ごとに異なります。そのためには，次の疑問を明らかにしなければなりません。

- 観光地アメニティとは何か？
- 観光地アメニティを高める要因とは何か？
- 観光地アメニティはどのようにして創られるのか？

これらの問題を紐解くためには，これまでの研究のように単眼的・要素的な見方ではなく，複眼的・総合的な見方が必要となります。マーケティングは，これらの問題を複眼的・総合的な見方から捉え，解決の手がかりを提示することができます。さらにマーケティングは観光地の視点ではなく，観光地を訪れる顧客の視点から，これらの問題にアプローチできます。

このシンポジウムでは，実際に観光地アメニティを創出し高めることによって，たくさんの観光客を呼び寄せ，地域活性化に貢献された実務家のお二人と，観光市場をマーケティング理論によって実証的に分析してこられた研究者のお二人をお招きし，観光により北海道の地域が活性化し，観光産業のリーダーとなるためのポイントについて，お話していただきます。

## プログラム

会場　北海道大学　クラーク会館　講堂

日時　11 月 21 日(木)　13 時 40 分より 17 時 10 分（13 時 00 分開場）

13：40～　**開会のあいさつ**

13：45～　**基調講演**　田村　正紀　教授
「観光地振興の決め手は何かーアメニティ・ミックスに注目せよー」

14：20～　**講　演**　東谷　望史　氏
「ゆずの村の産直が村へ人を呼ぶー1,000 人の村の観光振興ー」

14：55～　**講　演**　佐藤　大介　氏
「変革の現場から知る観光産業の現実と可能性」

休　憩（15 分）

15：45～　**提　言**　坂川　裕司　教授
「観光アメニティからみた北海道観光の今と未来」

16：20～　**パネルディスカッション**
パネリスト　東谷 望史 氏，佐藤 大介 氏，田村 正紀 教授
コーディネーター　坂川 裕司 教授

17：05～　**閉会のあいさつ**

参加自由・無料

## 講師・パネルディスカッションの参加者

〇田村 正紀（たむら まさのり　神戸大学名誉教授，北海学園特任教授，商学博士）

**略歴**：神戸大学経営学部教授，学部長をへて，同志社大学，マンチェスター・ビジネススクール，放送大学などの客員教授，日本商業学会会長，日経経済図書文化賞審査委員などを歴任。マーケティング，観光の著作多数。

**講演内容**：観光地の中でも宿泊地点がその中心である。全国の宿泊観光需要が横ばいである現状から見ると，国内宿泊客シェアを伸ばすか，外人などの新規需要を取り込まなければ観光振興は達成できない。この課題達成のためには，名所旧跡，町並み景観，娯楽・商業・宿泊施設，グルメ，土産物といった各アメニティを個別的に取り上げるのではなく，それらのアメニティ・ミックスをどのように構成するかが決め手になる。全国主要観光地のデータベースに基づき，この点を検証し，観光振興の基軸を提案したい。

〇東谷 望史（とうたに もちふみ　馬路村農業協同組合 代表理事組合長）

**略歴**：1952 年 3 月高知県安芸郡馬路村生まれ。1973 年 5 月馬路村農業協同組合就職。2006 年 4 月代表理事組合長　現在に至る。国土交通省選定観光カリスマに選ばれ，2007 年から馬路村観光協会会長。2012 年には地域づくり総務大臣表彰受賞。

**講演内容**：26 歳で馬路村農協の販売担当となり、ゆずという農産物を売るために悪戦苦闘の日々。加工品の製造や販売も始め、流通業者が相手にしてくれない為、旬の果汁を産地直送で始める。顧客を増やし、雇用を安定させるために、年間を通して売れる商品開発や、村を売る地域ブランドづくりを行う。売上げは 1 億をやっと越え、2 億 3 億。その勢いで 30 億を越える。「ごっくん馬路村」などの商品が村の名前を伝え少しずつ観光客や視察が増加。1,000 人の村がゆずと観光で元気な村に。それでも課題が・・・。

〇佐藤 大介（さとう だいすけ　星野リゾート・トマム 総支配人）

**略歴**：1999 年早稲田大学理工学部建築学科を卒業後，三井物産を経て 2004 年星野リゾート入社。古牧グランドホテル（現：星野リゾート 青森屋）などのリゾート再生事業に関わる。現在星野リゾート・トマム代表取締役総支配人

**講演内容**：東北新幹線八戸開業後 2 年で経営破綻した古牧グランドホテルはなぜ破綻し，星野リゾートはどのように甦らせたのか。雲海テラスはなぜ多くの観光客を集めているのか？外国人観光客が増えるなか観光業は真の成長産業となりうるのか？顧客満足度，魅力づくりと発信，収益性改善など現場の実例を交えて観光産業の可能性に迫ります。

〇坂川 裕司（さかがわ ゆうじ　北海道大学大学院経済学研究科 教授）

**略歴**：1998 年神戸大学大学院経営学研究科修了。小樽商科大学助教授，北海道大学大学院経済学研究科准教授を経て，現職。専攻はマーケティング。流通企業のマーケティング行動に関する研究に従事し，近年，観光におけるマーケティングの研究に着手。

**講演内容**：2020 年にオリンピック・パラリンピックの東京開催が決まり，観光立国に対する期待が再燃している。北海道に関して言えば大自然と変化に富んだ四季，様々な特産品など，観光地としての魅力を高めるアメニティは豊富である。しかしこれらは，今後も観光地としての魅力を本当に高めていくのであろうか。今後，観光市場をマーケティング的に捉えて分析し，計器飛行も組み合わせて市場を創造することが重要である。講演では様々なデータを用いて観光市場を考察し，北海道観光の「今」と「未来」を浮き彫りにする。

## 後援

日本商業学会北海道部会，北海道，札幌市，北洋銀行，北海道観光振興機構，JTB 北海道，AIR DO